

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

( 中間 **最終** )

函城中学校区 校番 14 学校名 呉市立函城中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学力の向上  (貫)	主体的な学びの推進による学力の定着と向上	基礎・基本の徹底	<b>【学力調査】</b> ○全国学力・学習状況調査において、正答率30%未満の生徒の割合は、3教科平均で <b>22.8%</b> 【目標値:5%】であった。 <b>国語:2.6%、数学23.7%、英語42.1%</b> ・教科によって、割合が大きく異なる。難易度との相関が考えられる。 ・標準学力テスト(1・2年)の結果も授業改善に生かす。 <b>【生徒アンケート】</b> ○家庭学習を目標時間(1年80分～、2年100分～、3年120分～)以上行っている生徒の割合は、 <b>68.2%</b> 【目標値:75%】であった。 <b>1年:66.7%、2年57.8%、3年81.0%</b> ・保護者アンケートの肯定的回答率との乖離が極めて大きい。中間と比較し、1年生の下げ幅が大きい。	○引き続き、主体的な学びの実現に向けて、「教えて考えさせる授業」を柱に、考える授業づくりを推進し、学校全体の授業力を向上させる。 ○授業の中で「めあて」「説明」「理解確認」「理解深化」「振り返り」カードを提示することにより、生徒の学習に関するメタ認知を向上させ、学力の定着を図る。 ○計画的に家庭学習を進め、学習時間を確保できるよう、学習方法・内容について継続して指導する。 ○タブレット端末を積極的に活用して学習課題を提示し、自分で学習を調節しながら理解を深めることができるようにする。
		思考力・判断力・表現力の向上	<b>【生徒アンケート】</b> ○「授業で課題に対し、主体的に考えて表現する活動に取り組んでいる」生徒の割合は、 <b>83.7%</b> 【目標値:90%】であった。 <b>1年:95.2%、2年71.1%、3年85.7%</b> ・学年の実態に応じた授業改善を進めていく必要がある(特に2年生)。 <b>【学力調査】</b> ○全国学力・学習状況調査において、結果が全国平均を3.0ポイント以上上回る生徒の割合は、 <b>46.5%</b> 【目標値:75%】であった。 <b>国語:65.8%、数学:39.5%、英語34.2%</b> ・「基礎・基本の徹底」で述べたことと同様、教科によって割合が大きく異なり、難易度との相関が考えられる。 ・標準学力テスト(1・2年)の結果も授業改善に生かす。	○ICTの効率的な活用や理解深化問題への挑戦などにより、考える授業づくりを推進し、考えたことを表現する場面を意図的に設定する。 ○「授業参観ウィーク(相互参観)」の中で、発問や指導方法の工夫・改善を進め、授業力を向上させる。 ○引き続き、主体的な学びの実現に向けて、「教えて考えさせる授業」を柱に、考える授業づくりを推進し、学校全体の授業力を向上させる。 ○教科等横断的な取組として、授業で各教科の見方・考え方を働かせ、根拠を示し説明する場を設定し、表現力をつける取組(OUTPUTへの挑戦)を進める。
豊かな心の育成  (貫)	自他を大切に共高め合う生徒の育成	自他のよさに気付き、相手思いやる態度の育成	<b>【生徒アンケート】</b> ○「学校に行くのが楽しい」と思っている生徒の割合は、 <b>83.7%</b> 【目標値:90%】であった。 <b>1年:88.1%、2年:82.2%、3年:81.0%</b> ・コロナ禍で中学校生活を過ごしてきた2・3年生の肯定的回答率が低いことが懸念される。 ○「自分にはよいところがある」と思っている生徒の割合は、 <b>72.1%</b> 【目標値:80%】であった。 <b>1年:73.8%、2年:62.2%、3年:81.0%</b> ・学年ごと、経年での比較により、変容を把握し、具体的な取組につなげていく必要がある。 ○「自分のよさが、まわりの人から認められている」と思っている生徒の割合は、 <b>68.2%</b> 【目標値:80%】であった。 <b>1年:73.8%、2年:60.0%、3年:71.4%</b> ・前述の結果と類似している。3年生の取組に上昇のヒントがあると考えられる。	○生徒自身が課題を見付け、改善策を考え、解決に向けて努力し、振り返り、発展させていく取組を充実する。 ○行事や委員会活動等における生徒の主体的で自治的な活動をさらに推進する。 ○「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」の育成を目標に組織的に指導する。 ○生徒指導の三機能を基盤に、自己指導能力をさらに向上させ、自己肯定感・有用感を高める。 ○積極的な肯定的評価・発信を行い、認め合う集団づくりを進める。 ○ボランティア活動の機会を意図的に増やす。挨拶を含め、マイスター制度を継続して周知し、達成者を表彰する。

豊かな心の育成	<p>① 自他を大切にしながら共に高め合う生徒の育成</p>	<p>目標達成に向け、気付き・考え・行動できる生徒の育成</p>	<p>【生徒アンケート】 ○「将来の夢や目標の実現に向けて努力をしている」生徒の割合は、<b>82.2%</b>【目標値:80%】であった。 <b>1年:85.7% , 2年71.1% , 3年90.5%</b> ・唯一、評価「A」の項目である。更なる高みを目指し、キャリア教育を進めていく必要がある。</p>	<p>○教育相談を充実させ、生徒の援助希求能力を高める。 ○「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」の育成を目標に組織的に指導する。</p>
* 健全な体の育成	規則正しく生活し、活力のある生徒の育成	<p>② 体力の向上</p>	<p>【新体力テスト】 ○県平均(R1)を上回った種目数の割合は<b>37.5%</b>(各学年男女別全48種目中18種目)であった【目標値:35種目以上】。 <b>男子 1年:1/8 2年:7/8 3年:5/8</b> <b>女子 1年:3/8 2年:2/8 3年:0/8</b> ・2年男子の割合は高いが、達成度は全評価項目の中でもっとも低く、改善が急務である。</p>	<p>○引き続き、体育の授業で効果的な補強運動を行う。 ○部活動顧問の意識や指導技術を向上させ、体力向上につなげる。 ○保体委員会の活動として、昼休憩のグラウンドでの活動の奨励を継続する。</p>
		<p>生活リズムの確立</p>	<p>【生徒・保護者アンケート】 ○「時間の三点固定を意識して行動し、生活リズムを確立できている」の肯定的回答率は、<b>生徒76.7%</b>【目標値:80%】、<b>保護者50.4%</b>【目標値:70%】であった。 <b>生徒 1年:81.0% , 2年68.9% , 3年81.0%</b> <b>保護者 1年:48.8% , 2年:50.0% , 3年:52.5%</b> ・保護者アンケートの肯定的回答率との乖離が極めて大きく、より丁寧な実態把握が必要である。 ○「携帯・スマホ等の通信機器を、PTA宣言とおり、21時以降は保護者が管理している」の肯定的回答率は、<b>生徒60.5%</b>【目標値:70%】、<b>保護者54.6%</b>【目標値:70%】であった。 <b>生徒 1年:69.0% , 2年55.6% , 3年57.1%</b> <b>保護者 1年:63.4% , 2年:44.7% , 3年:55.0%</b> ・本項目での乖離は大きくないが、各学年生徒、保護者とも肯定的回答率が低い。</p>	<p>○計画的に家庭学習を進め、学習時間を確保することができるよう、学習方法や学習内容について継続して指導する。 ○睡眠時間の確保を含め、適切な睡眠についても継続して指導する。 ○「時間の三点固定」と「PTA宣言」の取組をセットで発信し、各家庭でも呼び掛けてもらいながら、生徒が自分の生活を自分でコントロールする力を向上させる。 ○情報モラル教育と合わせ、スマホ等の適切な使い方について、繰り返し指導する。</p>
		<p>③ 「自分の命は自分で守る」防災教育の深化</p>	<p>【生徒アンケート】 ○「いつも『自分の命は自分で守る』ことを意識して生活している」生徒の割合は、<b>94.6%</b>【目標値:95%】であった。 <b>1年:100% , 2年84.4% , 3年100%</b> ・防災教育の取組は深化させているが、結果(2年生徒の意識の変容)につなげていない。</p>	<p>○当事者意識をもたせる防災教育に系統的に取り組み、「自分の命は自分で守る」「自分の言葉で周りの人の命を守る」力を高めていく。 ○「わが家のルール(災害時の対応)」作成時等、家庭で防災について話し合う機会を多くつくっていく。</p>

業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	<p>生徒と向き合う時間の確保</p>	<p>【教職員アンケート】 ○「生徒と向き合う時間が確保されている」と感じている教職員の割合は<b>54.5%</b>【目標値:80%】である。 ・スクラップアンドビルドを常に考え、チーム両城で組織的な取組を一層推進していく必要がある。</p>	<p>○前例踏襲ではなく、ゼロベースで学校教育活動を見直し、改善策を行っていく。必要に応じ、地域や保護者に協力を求めていく。 ○教職員相互の日常的なOJTにより、教職員一人一人の資質・能力を向上させ、目指す生徒像を明らかにし、協働して教育活動を進める。</p>
<p>長時間勤務の削減</p>	<p>【入退校記録】 ○時間外勤務が月45時間以内の教職員の割合は<b>66.0%</b>【目標値:100%】である。 ・特定の教職員に業務が偏らないようにするため、協働、参画の意識をより高める取組を推進していく必要がある。</p>			